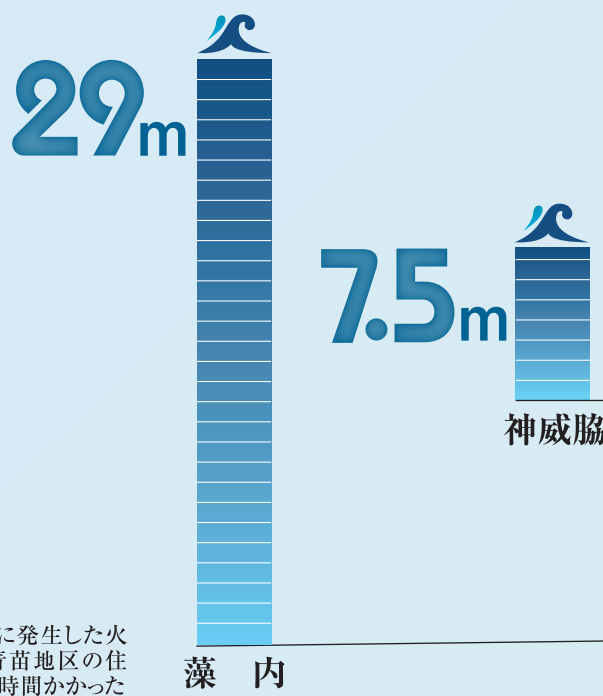




津波が直撃した後に発生した火災で、煙を上げる青苗地区の住宅地。鎮火まで約11時間かかった



青苗

地震前に住宅があった岬先端部には慰霊碑や公園が整備され、港に面した低地部は、かさ上げした土地に新しい住宅地がつくられた

地震の概要

発生日▶1993年7月12日
発生時間▶午後10時17分
震源▶北海道南西沖
震度▶※最大震度6
震度6▶奥尻町 震度5▶小樽市、寿都町、江差町
震度4▶苫小牧市、室蘭市、函館市、倶知安町
マグニチュード▶7.8
震源の深さ▶34*₀

※いずれも奥尻町の記録書などに基づく。震度は道内分のみ。奥尻町内は震度計が設置されていなかったため気象庁推定。「せたな町」はいずれも当時の大成、瀬棚、北檜山3町の合計

人的被害(人)

死者202 行方不明者28
奥尻町▶死者172 行方不明者26
※せたな町▶死者20 行方不明者1
島牧村▶死者6 行方不明者1
神恵内村▶死者2
松前町▶死者1
青森県▶死者1

各地の津波高

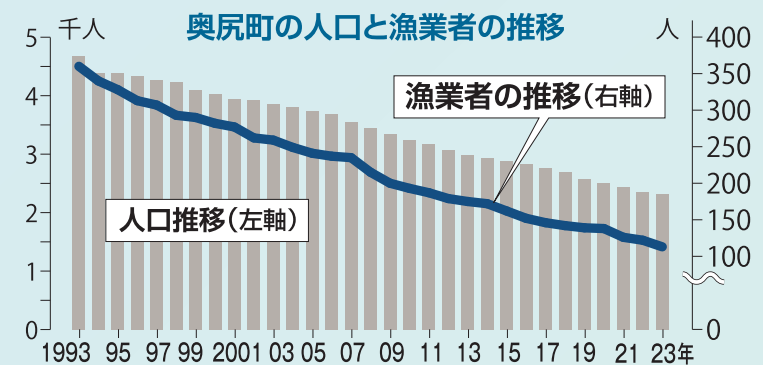
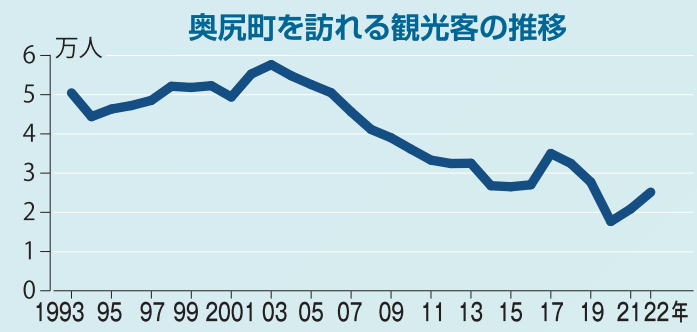
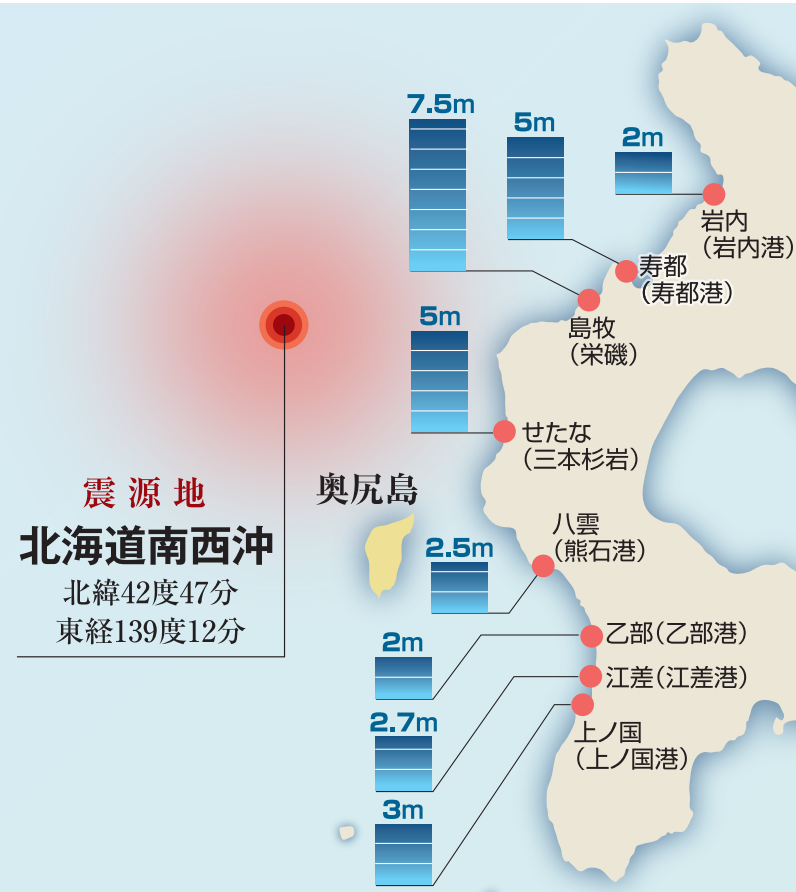
※「気象庁技術報告」に基づく



青苗



※いずれも震災当時の写真は1993年7月13日撮影。現在の写真は6月18日、藤井泰生撮影(本社ヘリから)



北海道南西沖地震以降の奥尻の主な歩み

1993年7月12日	地震発生
11月22日	奥尻町議会が住宅の高台移転案を決議
97年3月	防潮堤がほぼ完成
98年3月17日	町が「完全復興」宣言
2001年5月1日	震災を伝える「奥尻島津波館」がオープン
12年4月1日	「奥尻島津波語りべ隊」が発足
16年4月1日	奥尻高が道立から町立へ移管
19年	ハートランドフェリーが奥尻―せたなの季節運航を休止
20年4月14日	町が新型コロナウイルス対策で来島自粛を要請
21年7月17日	北海道エアシステム(HAC)が奥尻―丘珠の季節運航開始
23年7月12日	地震発生から30年

北海道南西沖地震後の主な地震災害

1994年10月4日	北海道東方沖地震(M8.2)。釧路などで震度6。
95年1月17日	阪神大震災(M7.3)。最大震度7。死者不明者6437人
2003年9月26日	十勝沖地震(M8.0)。日高、十勝地方などで震度6弱。死者不明者2人
04年10月23日	新潟県中越地震(M6.8)。最大震度7。死者68人
07年7月16日	新潟県中越沖地震(M6.8)。最大震度6強。死者15人
11年3月11日	東日本大震災(M9.0)。最大震度7。死者・不明者2万2000人超(震災関連死含む)
16年4月14、16日	熊本地震(M6.5=前震、M7.3=本震)。観測史上初めて震度7を2回記録。死者276人(同)
18年9月6日	胆振東部地震(M6.7)。道内で初めて震度7を観測し、胆振管内厚真町を中心に全道で44人が死亡(同)